



北村秀行の “チャーマス・ブレイン”

“Char Mas. Brain”

連載 第133回

コチの仲間②

前号に引き続いてコチの仲間を紹介。今回はトカゲゴチ属、イネゴチ属、エンマゴチ属、ハナメゴチ属、メゴチ属を解説してもらおう！

解説●北村秀行

亜熱帯海域から熱帯海域には、成魚で30cm以下の小型のコチ垂目の魚が多く、分類が非常に難しい。「科」「属」の変更、新種の同定等が多くある。そこで50cm以上に成長するコチ類や気になる種を説明する。

トカゲゴチ属はワニゴチとトカゲゴチが日本に生息

トカゲゴチ属 (*Ungegocia*) は全3種中、日本に生息するのは2種。

トカゲゴチ属とイネゴチ属との関係には深い事情がある。

◆ワニゴチ (鰐鰯)

学名: *Inegocia ochiai*

英名: Crocodile flathead

相模湾・若狭湾以南の南日本、八丈島、濟州島、台湾、中国、海南島。大陸棚の100m以浅の砂泥底に生息。

眼下骨の隆起線に2本の棘を持つ。眼の虹彩皮膜は長く分岐する。吻はやや長い。間鰓蓋部(鰓蓋の隙間)に単一形の皮弁(体表に突き出た皮膚の突出物。舌状、リボン状、分枝状等)を持つ。眼上皮弁がないので、他のコチ科魚類と区別できる。

動物食性

で小魚や甲殻類を捕食する。最大60cm。

刺し網、定置網、釣りなどで漁獲される。美味しく食用になって

いる。

標準和名のワニゴチには長い間



●ワニゴチ
南方で釣れるコチは姿形がワニゴチと似ている。英名もクロコダイルだ！



●トカゲゴチ
学名にイネゴチの冠がある

「*Ungegocia sutata*」という学名でトカゲゴチ属 (*Ungegocia*) があてられてきた。ところが、その学名の基準標本種(担名タイプ)の調査でイネゴチ属であることが判明。日本周辺に生息する種は *U. gutata* とは異なる新種となり、2010年に *U. ochiai* の学名が付けられた。

若狭湾・九州南岸・東シナ海、朝鮮半島西岸・南岸、台湾、福建省、広東省、インド・西太平洋域、ニューギニア南岸、オーストラリア北西・北・北東岸。温帯から熱帯域の100m以浅の砂地に生息。最大35cm。

「*ochiai*」はウシノシタ科、コチ科の分類に貢献した高知大学名誉教授・落合明博士に献名された学名だ。

眼下骨の隆起線に2本の棘がある。眼の虹彩皮膜は分岐し複雑な形状。間鰓蓋部に皮弁があり、吻はやや短い。第1背鰭縁辺部は暗色ではなく、眼上皮弁がない。

ワニゴチと混同されて市場に出るイネゴチ

イネゴチ属 (*Cocclia*) 全

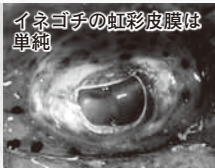
の砂底に生息。頭部や体側に小黒斑点がパラパラとある。眼下骨隆起線上に3本の棘がある。虹彩皮膜は半円状で分岐などはなく、間鰓蓋部にも皮弁がない。動物食性で、小魚や甲殻類などを捕食する。最大体長60cm。

ワニゴチと混同されて、市場に出るが、メゴチに比べると旨味が薄い。塩焼きが美味しいが、一般的には、そのように調理しないだろう。

ワニゴチ科の仲間であるワニゴチと混同されて、市場に出るが、メゴチに比べると旨味が薄い。塩焼きが美味しいが、一般的には、そのように調理しないだろう。



●イネゴチ
トカゲゴチとイネゴチの関係は複雑だ！英名にはクロコダイルの冠がある



5種中、日本に生息するのは2種。イネゴチのほかにミナミイネゴチが生息する。

◆イネゴチ (鰐鰯)

学名: *Cocclia crocodilia*

英名: Crocodile flathead

太平洋側・青森県、日本海側・秋田県・九州・東シナ海沿岸。瀬戸内海、朝鮮半島、中国、台湾、沿岸の10m以浅

エンマゴチの眼上皮弁。海から揚げるとわかりづらいが、海中では皮弁が立ち上がってはっきりわかる



エンマゴチ属 (*Gymbaecephalus*) は全4種中、日本に生息するのは1種。

ワニゴチ科の仲間のエンマゴチ

エンマゴチ属 (*Gymbaecephalus*) は全4種中、日本に生息するのは1種。

学名: *Gymbaecephalus beauforti*

英名: Crocodile fish

山口県以南の日本海沿岸、琉球列島、台湾南部、フィリピン諸島中部、カリマンタン東岸、モルッカ諸島、パラオ諸島、ニューギニア島南西岸、ニューカレドニア。水深2〜20m以浅のマングローブ域や珊瑚礁の砂地に生息。ワニゴチに似るが、間鰓蓋

部の皮弁は幅広く波型の形状をし、眼上皮弁がある。最大50cm。

メゴチに似るハナメゴチ

ハナメゴチ属 (*Ratubulus*) は全1種。

◆ハナメゴチ (鼻鰐鰯)

学名: *Ratubulus diversidens*

英名: Freespine flathead

太平洋沿岸は相模湾・九州南岸、日本海沿岸は兵庫東香住以南・東シナ海、朝鮮半島南岸、台湾、広東省、海南島。やや深水性で水深45〜400mの大陸棚シオルダー・斜面上部の砂、小砂利、貝殻混じりの砂底に生息。眼の虹彩皮膜上片は単純な形状。体側には黒色点がある。メゴチに似ているが、間鰓蓋部には皮弁がないことでメゴチと区別。第1背鰭と第2背鰭間に1本の棘がある。最大40cm。

テンブラの「メゴチ」は標準和名メゴチとは違う

メゴチ属 (*Suggiandus*) は全3種中、1種が日本に生息。



●ハナメゴチ
「メゴチ」の名があるが、テンブラで食べるメゴチと違う

小型底曳網漁業などで多量に漁獲され、食用とされる。骨が大きくて食べにくく、メゴチと比べると水っぽいので雑魚として扱われる。テンブラで美味しい「メゴチ」

●Profile
北村秀行 きたむらひでゆき
1946年9月8日生まれ。
“チャーマス”の愛称で親しまれ、この人なくして今の日本のソルトウォーターアーフィッシングの発展はないと言っても過言ではない。魚やタックル、そして自然など、釣りに関係するありとあらゆる物事に対する豊富な知識から導き出される卓越したフィッシング理論には定評がある。クラブビッグワズ代表。tailwalk スーパーバイザー



●メゴチ
キス釣りで釣れる通称「メゴチ」はネズツポ科の魚で魚名が違う

チ(ネズツポ科)と呼ぶ種は本種ではなく、ネズツポの仲間である。また、スズキ目ネズツポ科ネズツポ属にはネズミゴチのように「コチ」と名の付く魚名もあり、しばしば混同される。魚名だけで種がわかるように命名するのは不可能なのだろうか？